

その頃になると、鳥たちの声で季節が変わったことを実感させられる。代表的なのはウグイスの初鳴きだ。これが毎年だいたい同じに日に鳴き始めるのが不思議だ。例えば二〇一九年は四月十三日、翌二十年は四月十六日、二十二年は四月十五日という具合だ。逆に四月二十三日まで鳴かなかった二十三年は、何か自然界に異変があったのかと心配になってしまいうくらいだ。同じ頃、その声を聞くとホッとするのがオオジシギだ。前にも書いたようにオオジシギは遠くオーストラリアからノーストップで渡ってくる鳥で、無事に渡りを終えることができなかったのも少なく無いと言う。オオジシギもほぼ同じ頃にやってくる。最も早かったのが二〇一九年の四月十五日で、最も遅かったのが二〇一八年の四月二十六日だった。オオジシギは鳴き声もそうだが、独特の金属的な翼の風切り音を聞くと、「長旅お疲れ様でした。ここでゆつくりしていいね。」と労いたくなる。

そうなると。エゾエンゴサクの黄色い花や、コブシの白い花、そしてエゾヤマザクラなどの春を代表する花々の出番になる。まちなかにいた時は、それらの花々を目にすると春が来たと感じていたが、ここ竹山にいと春はもつと早くからスタートしていて、その間は、人も生き物もまた一年を過ごすための準備をしつかりするための時間として大切にしなければならぬと感じる。

準備といえば、この時期大切なのはスズメバチトラップの設置だ。この頃になるとスズメバチの女王が目覚め、巣をつくり始めるのだ。一人で巣をつくりそこに卵を産み育て成虫になると、力を合わせて巣を大きくしどんどん卵を産み育てる。それを繰り返し返して両手で抱えるほどの大きな巣ができあがる。スズメバチはミツバチなどを襲い幼虫のためのタンパク質を集めるようだ。人間もタンパク質であるが、食料として襲うことはない。ただ、間違つて巣に近づいたりスズメバチにとって脅威になる存在と見なされたら刺される。ご近所のOさんも草刈りなど畑仕事をしていて刺されアナフィラキシー症状が出て救急車のお世話になったと言う。ちょうど、ここで定住を決めた年の春に家の軒裏に小さな徳利型の巣をつくられてしまった。まだ、女王バチが一人で巣作りしている段階だったので、すぐに刺される事態にはならないと思われたが、そのままにしていると巨大なスズメバチ集団を形成してしまうので、駆除することにした。駆除するにはホームセンターで売られているスズメバチのイラストが大きく描かれた専用の強力殺虫剤を使うのだが、相手も必死だろうから逆襲を恐れて駆除業者をお願いした。

業者に頼むとそれなりのお金がかかるので、それ以降、Mさんに教えてもらったハチトラップを五、六ヶ所設置することにしていく。大型のペットボトルにハチが入る穴を開けて中に特別なカクテルを入れるのだ。レシピは極甘口の日本酒二に対して酢と砂糖を各一混ぜる。それをペットボトルに深さ七、ハチセンチメートル程度入れて、怪しそうなところに吊るすだけ。ただ、自分たちがよく通るところは避けないと呼び寄せるだけになる。

